



「サシバの里」を知ろう、守ろう 「里山自然塾」

助成区分

植樹

環境保全

調査・
研究

教育・
啓蒙

実施状況

参加者数

74名

参加者満足度

100%

活動の全体目標に
対する達成度

100%

課題

栃木県の市貝町には、絶滅危惧種のタカ・サシバが日本一高い密度で生息しており、環境省の「重要里地里山」にも選定されている。一方で、農家の減少や高齢化によって耕作放棄地も増加しつつあり、生物多様性の劣化が心配されている。

活動内容

オオタカ保護基金では、市貝町の里山の生物多様性の劣化を防ぎつつ、持続的な利用を進めるために、古民家と周辺の田畑、山林を活用して、「サシバの里自然学校」を設立した。今回の活動の目的は、この地域において、都市と農村の交流、里山の保全、地域の活性化を目指し、都市部の子どもや親子を対象にした「里山自然塾」、「里山自然体験キャンプ」、「サシバの里自然学校」を拠点に定期的に開催することである。

成果

里山自然塾では、都市部の子どもや親子を対象に、里山での農業体験（米作り等）、自然体験、暮らし体験等を日帰りで6回行った。内容は、デイキャンプ2回（4月30日、5月7日）、農的暮らし体験4回（5月21日、6月18日、7月23日、10月8日）である。また、里山自然キャンプでは、都市部の子どもを対象に、里山での農業体験、自然体験、暮らし体験等を古民家に宿泊して1泊2日で、5月4日～5日に1回行った。その結果、合計延べ78人の参加があった。参加者の全員が活動に満足しており、また当初の目的である都市と農村の交流、里山の保全、地域の活性化にも役立ったと考えられる。

工夫した点

- ・デイキャンプでは、参加者全員で火おこしたり、地元産の小麦・野菜などを使ったピザづくりを行うなど、楽しみながら里山を理解できるようにした。
- ・農的暮らし体験では、田植えから田の草取り、稲刈りまでの一連の米作りを行い、体験を通じて里山の暮らしや大切さを理解できるようにした。
- ・田んぼなどでの生きもの観察を毎回入れ、農業が里山の生きものにとって大切であることを理解できるように努めた。

今後の課題

当初の目標はほぼ達成できたと思うが、参加者が予定を下回ったことから、集客に課題が残った。今後も、広報などを強化して参加者を増やし、里山自然塾、里山自然キャンプとも同規模・同頻度で開催していきたい。